

### 私たちが議長を務めました



岡中 紗綾 議長  
(武田小6年)



野上 斗愛 議長  
(薄市小6年)



豊澤 飛鳥 議長  
(小泊小6年)



阿部 桃子 議長  
(中里小6年)

# なかどまり 子ども議会ガイド



## キラリと光るアイデアたくさん 中泊町子ども議会開催

子どもたちの斬新なアイデアを町政に反映させようと、2月2日(金)役場議場で6回目となる中泊町子ども議会が行われました。

子ども議員8人が順に質問者席に立ち、パネルを使うなど工夫をこらしながら、町長に学級やグループでまとめた質問をぶつけていました。

最後は米塚教育長が「みなさんが普段の生活の中で、こうすれば住みやすい町になるのではと考えていること、感じていることが伝わってきました。そのような課題を考えて解決しようとする力は成長するうえで大切なものです。豊かで住みやすい町になるように、みんなで力をあわせて、課題に取り組んでいきましょう」と講評しました。



### 街灯の設置について



葛西 颯太郎 議員  
(中里小6年)

〈質問〉  
帰りが遅くなると、通学路に街灯がないため、とても暗いです。大きな道路には街灯がありますが、宮野沢や亀山、五林などの小道には街灯がない所が多いです。また、さわやか団地には街灯がありますが、つかなくなっている街灯もあります。そのため、家に帰るとき、暗くて不安な時があります。すべての道路に街灯を設置するのは難しいと思いますが、通学路が暗いととても不安なので、安全のためにも街灯を設置することを要望したいと思います。

### 〈答弁〉

防犯灯の設置要望があった場合は、現地を確認して必要と判断すれば、すぐに対応して設置しております。  
ご質問にあった駅前から中里小学校までの通学路ですが、夜はとも暗くて危険だということを職員から報告を受けました。数カ所ですが、防犯灯の設置が可能でしたので、対応したいと思います。  
町では、暗くて危険と感じるような場所が一日でも早くなくなるよう、これからも努力していきたいと考えております。

### 中泊町の食材を活用した駅弁・バス弁について



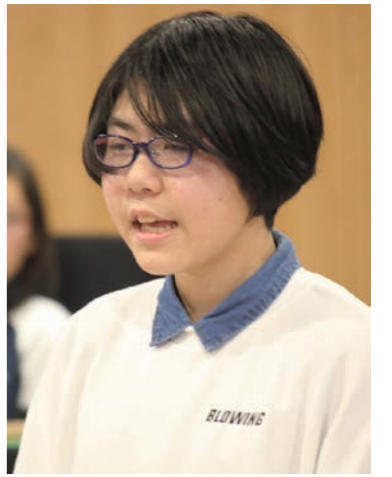
田中 彩鈴 議員  
(武田小6年)

〈質問〉  
津軽鉄道や路線バスの起点になっている「津軽中里駅」に、ここでしか食べられない限定弁当を販売し、そのおいしさを味わっていたくのはどうでしょうか。中身は、ご飯はもちろん中泊産「まっしぐら」、おかずは、中泊産自慢の食材を積極的にアピールします。メバルの焼き魚、アスパラの炒め物、お口直しにブルーベリーのスイーツなどはどうでしょうか。

〈答弁〉  
名前は、中里地区の農産物を中心とした食材で作りましたものを「米ケル弁当」などゆるキャラを使います。観光のお供として楽しんでもらえるのではないのでしょうか。

〈答弁〉  
地場産品を主役に、工夫を凝らした弁当を提供することで、地域の食のPRや観光客の満足度を高め、町への再訪を促すものと考えます。しかし、採算性なども十分に検討していく必要があります。町農産物加工販売施設などを活用し、関係者と連携して取り組んでいくよう検討していきます。

### 町民みんなが安全に楽しく過ごすことができる公園の設置について



竹原 真菜 議員  
(小泊小6年)

〈質問〉 私は、町の人たちが安全に楽しく過ごすことができる公園の設置を提案します。

小さい子どもや私たち小学生、大人やお年寄りみんなが、遊んだり話をしたり、運動したりできる公園があればいいと思います。いろいろな年代の人の触れ合いから、つながりができて、町の人たちの心を豊かにすることになっていくのではないのでしょうか。

〈答弁〉

中泊町には、大小様々な公園があります。公園を維持管理するのに毎年かなりの費用がかかっています。遊具はかなり古いものが多く、危険なものも順次撤去し、小学校の遊具を優先して整備をしております。

ご提案の人とのふれあいや、つながりをつくることのできる場所は、確かに必要だと思います。現在ある公園の利用方法を考えながら地域住民の意見などを聞き、公園だけでなく地域全体のまちづくりとして、総合的に計画していきたいと考えております。

### わんぱく広場の整備について



小田原 萌々菓 議員  
(中里小6年)

〈質問〉 「なにもささパレード」を行うときに、わんぱく広場に全校が集合します。わんぱく広場を目にする度に感じていることがあります。トイレが汚れ、遊具は古く安心して遊べる状態ではありません。そこで、トイレをきれいにし、遊具も新しいものにし、ベンチなども設置して、大人や子どもが楽しめる場所にしてはどうでしょうか。

〈答弁〉

わんぱく広場のトイレは、老人クラブの人に掃除してもらっています。今後は広場全体に目が行き届くようにお願いしていきたいと思っています。

遊具は、安全基準が厳しくなっており、一部撤去いたしました。現在、ブランコと新設した滑り台があります。今後も、最低限の遊具は整備することを検討していきます。

大人や子どもが楽しめる場所は、今の広場とは別に、町の施設や空き家・空き店舗などを活用した「カフェ」や「遊びのスペース」のような、みんなが一緒に楽しめ、交流できる「新しい広場」の開設も考えていかなければならないと思っております。

### 町の観光スポットについて



野上 和 議員  
(中里小6年)

〈質問〉

町のPRとして、メバル膳などの特産物やゆるキャラなど注目されるものが多くなってとても良いと思います。そこで、今度は観光スポットに注目してはどうかと考えました。

観光客はももちろん、地元の人たちも気軽に楽しめる場所や町の豊かな自然を生かし、みんなが体験できる施設も観光名所になるといいのではないのでしょうか。

〈答弁〉

町の知名度の向上と交流人口の増加、経済波及効果を生み出す素晴らしいアイデアだと思います。

町は、多彩な景勝地、自然環境に恵まれています。観光スポットとしては「大沢内ため池」「ライオン岩」などがあります。これらを、観光名所としてもっとPRしていくことにより、県内外から多くの観光客が訪れることと思います。今後は、町長である私もセールスに出かけ、町の特産物・観光スポットをPRすることで、町へ足を運んでもらうためのきっかけになるよう努力していきます。

### 週に1回の移動販売車



鍋田 亜衣海 議員  
(小泊小6年)

〈質問〉

お年寄りとの触れ合いから考えたことは、お年寄りのための、週1回の移動販売車です。小泊には食料品などが充実しているスーパーがなく、買い物に行くのが大変です。

移動販売車が家の近くまで来てくれれば、少し歩くだけで買い物ができます。また、決まった時間・場所に集まることによって、コミュニティの場になり人とのつながりがもてるのではないのでしょうか。

〈答弁〉

わが町も少子高齢化が年々進み、2040年には、人口が現在の約半分に、そして半分以上が高齢者になる見通しです。移動販売車は、町の将来の課題をとらえた提案だと思えます。高齢者への買物代行や配送事業ですと、すでに提案があり、来年度から試験的に実施する予定です。

また、地域の課題を見つけ、住民との工夫などによって解決を図る「集落支援員」を募集しており、下前・折戸地区で活動していただくことにしています。これらの取り組みを行いながら、他の市町村での移動販売車の状況も参考にして、検討していきたいと考えております。

### 地吹雪体験ツアー参画について



白川 柊真 議員  
(武田小6年)

〈質問〉

「地吹雪体験ツアー」にオプシオンを追加した「地吹雪・大変ツアー」を提案します。観光客に、秋は町自慢の稲で、冬には厄介な雪で作る田んぼアートを体験してもらい、民泊や空き家を宿泊施設として活用し、自慢の食でもてなしをします。都会や外国では経験できない感覚を肌で感じるができます。

苦労を売りにした体験型「地吹雪・大変ツアー」で、僕たちのふるさと「中泊町」を広くPRする機会になるのではと考えます。

〈答弁〉

他の地域で開催されている地吹雪体験ツアーとは一味二味変えていこうと参画し、1月20日にわが町でも地吹雪体験ツアーを実施しました。森林鉄道の線路が通っていた場所で地吹雪を体験し、冷えた体をメバル汁で温める。歴史と食を味わうことができる地吹雪体験ツアーとなっています。

稲や雪での田んぼアートですが、遠近法などの工夫を取り入れているので簡単にはいきませんが、検討したいと思えます。様々なアイデアを出すのはもちろん、ネーミングも工夫しながら取り組んでいきたいと考えております。

### 人口減少をふせぐために



野上 晴琉 議員  
(薄市小6年)

〈質問〉

町では、人口減少を止めるためにどのような働きかけをしていますか。

農業や漁業の跡継ぎがいなくて困っていると聞きます。そこで、若い働き手を募集してはどうでしょうか。働き手や後継者を望む人と、働きたい人を募集します。町では互いを紹介し、お年寄りは仕事を教え、機材を貸したり、売ったりしてはどうでしょうか。U-Jターンへの働きかけに加え、広く全国から自然の中で働きたい人を募集すればよいと思います。

〈答弁〉

わが町の人口は、自然減と社会減を合わせ毎年300人くらい減っています。

若い働き手を募集するには、町でしっかりと暮らせるという仕組み作りが大事です。様々な工夫をし食べていける農業・漁業にすることで、出て行く人は減り、外からは人が来るのではと考えています。例えば、町長が町の特産品を売り込むトップセールスです。特産品を売って得たお金が町の経済を元気にし、人が暮らせるようになり、町がにぎやかになって人口減少を止められる。そのような様々な取り組みを行っております。